

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	玉川町立玉川中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	44	66	53	2	165	

研究の概要

1. 研究主題

豊かな心を持ち、主体的に生きる生徒の育成

- 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための学習指導法の工夫と評価 -

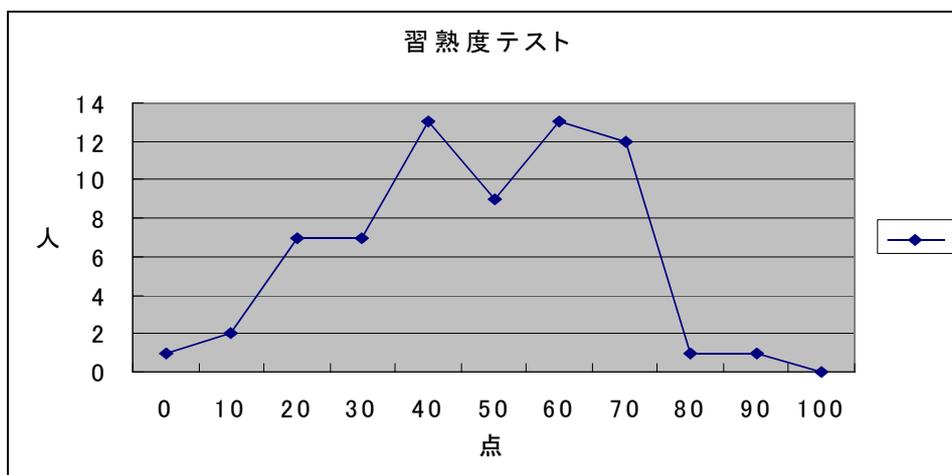
2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・数学科における少人数指導の取組

2、3年生を対象に1学級を2クラスに編成し、別々の教室で学習指導を進めている。原則として、全授業を少人数指導で行っているが、1教室で授業をした方がよいと考えられる場合は、T・Tの形態で学習を進めることにしている。

3年生はこれまでの学力検査の結果から比較的基礎学力の差が小さいと思われるので、出席番号順に機械的に少人数に分けて指導した。2年生は、心の教室指導員による無記名のアンケートでは9科目中数学が好きと答えた生徒が39/197(複数回答)もあり一番多く、また、数学が嫌いと答えた生徒は13/187(複数回答)と体育、技術・家庭の次に少なかった。しかし、4月初めの習熟度テストでは次のようなグラフの結果になり、高原型で基礎学力の差が大きくなった。そこで年度当初から、生徒の希望を優先した習熟度別のグループ編成(基礎的なものの定着を図る基礎コースと発展的な内容まで扱う標準コースの2グループ)を取り入れて少人数指導を行うことにした。



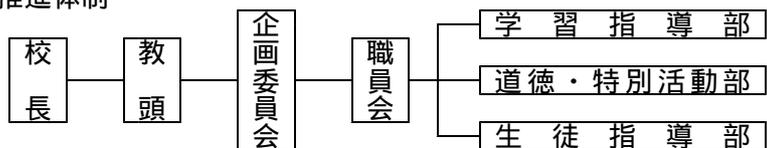
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ「豊かな心を持ち、主体的に生きる生徒の育成」</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>「確かな学力」を「21世紀を生き抜く力としての資質や能力」としてとらえ、家庭での基本的な生活能力、学校での基礎的学習能力、地域での社会的学習能力の3つに分類し、一人一人のそれらの能力を伸ばすことにより、学校目標の「豊かな心を持ち、生きる力を身につけた生徒の育成」に迫る</p>
--------	--

	<p>ことができるだろうと考えている。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人にきめ細かな指導ができる少人数指導の在り方 (数学科・英語科) <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数編成(習熟度別や領域別)による指導方法や指導体制の工夫改善 2 「確かな学力」を確立させるための指導の工夫・改善 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習ドリルの活用と生徒への支援、指導方法について (2) 学習ノート活用について (3) 興味・関心を高めたり、発展的な学習へも対応できる教材、教具の開発について 3 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学力診断テストや生徒アンケートによる分析 (2) 自己を生かす評価方法の工夫
--	--

平成 16 年度	<p>テーマ「豊かな心を持ち、主体的に生きる生徒の育成」</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>15年度の研究をもとに、教科を数学科に絞り、基礎的学習能力の育成に向け、生徒一人一人にきめ細かな指導ができる少人数指導の在り方を探ることができ基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、学力が向上することができるであろうと考えている。また、標準コースの生徒がより発展的な学習に取り組める指導方法の研究について模索中である。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人にきめ細かな指導ができる少人数指導の在り方(数学科) <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数編成(習熟度別)による指導方法や指導体制の工夫改善 2 「確かな学力」を確立させるための指導の工夫・改善 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習ドリルの活用と生徒への支援、指導方法について (2) 学習ノート活用について (3) 興味・関心を高めたり、発展的な学習へも対応できる教材、教具の開発について 3 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 定期テスト・学力診断テスト、生徒や保護者アンケートによる分析 (2) 自己を生かす評価方法の工夫
----------------	---

(3) 研究推進体制



部会名	主な研究内容
学習指導部	基礎・基本の定着を図るための少人数指導をはじめとする指導方法の改善と評価方法の研究 ・少人数学習を充実させるための指導法や評価の工夫 ・校内研究授業の推進 ・選択教科の年間計画の作成と実践
道徳・特別活動部	地域と共に歩み、郷土や人を愛する心を育てる活動の在り方 ・生徒が主体となり、地域に根ざしたボランティア活動 ・道徳的心情を高めるための心のふれあいや体験活動のあり方
生徒指導部	地域の連携と生徒理解 ・広報誌の精選と充実 ・PTA関連行事を通しての連携 ・教育相談の充実 ・保護者アンケートなど

平成15年度の研究成果及び今後の課題

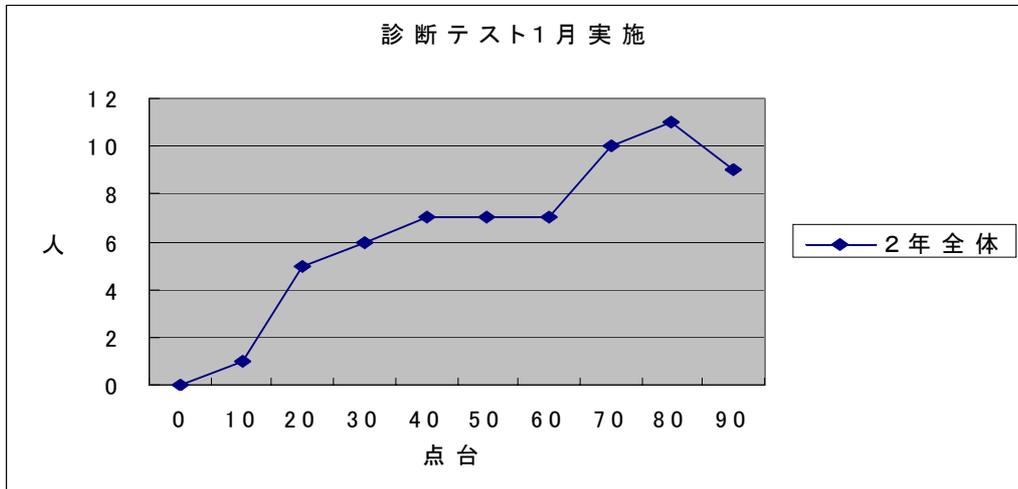
1. 研究成果

習熟度別少人数指導では、同じような意欲や目標、学力をもった集団の中で、効率的、効果的な学習を進めることができた。また、単元(章)が変わるごとにグループを再編成したので、分野ごとに生徒たちは流動的にグループを移動することができ、生徒には好評を得ている。

基礎コースの指導においては、生徒にひらめきを与えられるような「カード」を活用することで多様な考え方に気付く生徒が増え、効果が上がった。また、色別のシールを貼って、考え方の違いを分ける方法を用いて、教師が一人一人の意欲を高めたり、一目で全体を把握できる点で有用であると感じた。

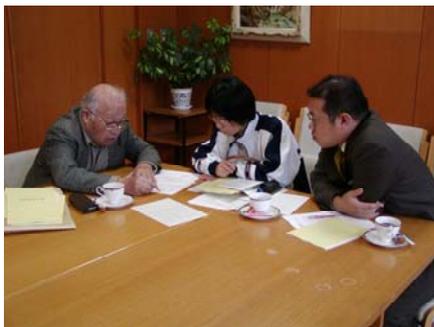
単元ごとにコースを選択させ、現在5回目であるが、初めのうちは自分に合ったコースを選ぶことができていなかった生徒も回を重ねるごとに適切なコースを選ぶことができ、それぞれのコースで力をつけることができるようになってきた。このため定期テスト等において標準コースと標準コースの点差が縮まっている。(詳しくは、特色ある取組の事例に説明)

下表は3学期1月実施の学力診断テストの度数分布表である。1学期4月当初の習熟度テストに比べて高原型から右よりの山形への変化が見られた。低位から中位の分布の人数が減り、上位のふくらみが大きくなっている。このことから、全体的に基礎学力の伸びがあったと考えられる。今後の診断テストやCRTテストの結果も参考にしながら、生徒の変容を見届けたいと考えている。



習熟度別少人数指導の学習指導案の検討を学力向上フロンティア事業の講師である村上先生を交えて行った。「基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための学習指導法の工夫と評価」を授業研究のポイントとして、評価基準は適切かどうか、学習指導案の中に評価の観点をどのように入れていくか、基礎コースと標準コースのねらいや課題の設定は適切かどうか、どういう指導の工夫をしていくかという点について、具体的に話し合った。そして、その話し合いを生かして学習指導案の再検討を行った。

また、授業で活用したい教具についてお互いの考えを出し合っ、村上先生のアドバイスや手ほどきを受けながら作成した。実際の授業では作った教具を生かし、数学的活動を促し考えることの楽しさを味わわせる授業ができたと思う。



2. 今後の課題

教育相談をしながら、生徒の希望によって習熟度別グループ編成を行ったが、初めのうちは生徒自身の自己選択能力も乏しく、グループの人数に偏りができたり、計算などで手のかかる生徒が偏り、少人数のよさが発揮できにくい場面があったりした。

単元(章)が変わるごとに担当教諭が入れ替わるので、1学期に1度も教えない生徒がいる点など、全体を通しての生徒の変容が把握できにくい部分があった。

個に応じた指導が行えるように努めているが、1単位時間中は一斉授業の形態の時間が多くなり、授業で個々の考えを生かしていく時間が不足しがちであった。

2コースの間に、学習内容のつながりをもたせることが大切であるとする。基礎コースを選択した生徒たちに、標準コースの考え方を聞かせるなど、コースごとの交流を図る工夫をしたい。例えば、コース別指導後に一斉指導を取り入れるなど、一律に少人数で指導を続けるのではなく、柔軟な教師側の対応が必要であると感じている。

評価のための評価にならないように、生徒一人一人が達成感を味わえるような評価表になるよう工夫が必要であると感じた。今後、生徒の達成度を表すような自己評価表になるよう工夫していきたいと考えている。

学力把握のための学校としての取組

1. 習熟度テスト(4月)
1年時の学習内容の習熟度を把握するためのテストを行い、一人一人のデータをとった。
2. 学力診断テスト(3学期1月実施)
診断テストの結果からは、全体的に基礎学力の伸びがみられた。
3. 定期テスト(6月、7月、10月、12月実施)
基礎コースを担当した教師が問題を作成するようにしている。学期末には、2人の教師が協議をして最終的な評価を出している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 平成16年度学力向上フロンティア事業 第1回 今治地区協議会
日時 平成16年6月予定
場所 玉川町立玉川中学校
対象 今治地区協議会委員及び一般参加者
会の目的
学力フロンティア事業の取組の情報交換及び研究推進の充実のため
2. 研究成果普及のためのHP作成予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無